

学士論文 2017年度

読売新聞におけるシベリア抑留報道  
—終戦後から50年代にかけて—

慶応義塾大学 総合政策学部4年

小熊英二研究会 林 和樹

Email: [kazuki.hayashi5040@gmail.com](mailto:kazuki.hayashi5040@gmail.com)

## 論文要旨

本研究は、敗戦直後に約60万人の日本人兵士がソ連軍に連行され、長期間収容生活を送った「シベリア抑留」。これに関する読売新聞における、終戦後から50年代にかけての報道に焦点を当て、この時代の読売新聞の報道上でのシベリア抑留の姿を捉えるというものである。本研究では、読売新聞のデータベースにおける新聞記事を対象とし、主に量的調査を用いてシベリア抑留に関するメディア史研究を試みた。この調査によって解明されたことは以下の4つである。

1章においては、読売新聞の引揚げ・抑留報道において、シベリア抑留という題材は比較的多く取り上げられていること。

2章においては、読売新聞はシベリア抑留報道を政治・社会・国際の領域に属するものと位置付け、詳細な分類では戦争、東欧・旧ソ連と深い関係があると位置づけつつも、政局、国会、政党などの狭い意味での日本政治、日本外交、日本社会の観点での報道も多く行われていること。

3章においては、読売新聞において49年代から50年代にかけて、53年代、55年代から56年代にかけてシベリア抑留報道が増加する傾向がある。そして、時間の経過とともにシベリア抑留から派生する問題まで含め報じるようになること。

4章においては、読売新聞において、終戦後から「捕虜」、「抑留」という単語が見出しに使われる頻度にはそれぞれ特徴がある。捕虜という言葉とシベリア抑留には強い関係性は見られなかったが、抑留という単語は見出しにおいて、シベリア抑留の記事でよく使われる傾向があること。

本研究全体を通してわかったことは、読売新聞の引揚げ、抑留報道においてシベリア抑留はある程度独立したテーマという位置づけであり、時間の経過とともにその取扱い方もより詳細なものになっていくということである。

## キーワード

シベリア抑留/量的調査/読売新聞/抑留/捕虜

## 目次

はじめに — p.4

序論 — p.4

### 本論

第1章 引揚げ・捕虜・抑留に関する報道の数 — p.7

第2章 引揚げ・捕虜・抑留に関する記事の分類 — p.10

第3章 年代での変化 — p.18

第4章 見出しに含まれる単語 — p.23

終章 結論 — p.27

おわりに — p.28

参考文献 — p.29

## はじめに

本研究は読売新聞のシベリア抑留報道に関するメディア史研究である。本研究において重要な意味を持つシベリア抑留について簡単にその概要を記しておく。

終戦後、ソ連によって武装解除された日本軍捕虜そして民間人約60万人を1945年9月から翌年8月以降までおおむね三段階に分けてシベリアを含む、ユーラシア全土の広大な地域に移送。彼らは、ソ連によって長期にわたり強制労働を強いられ、収容生活を送った。

## 序論

### I 先行研究

シベリア抑留に関する研究は日本国内においてもそれなりに行われてきたが、そのほとんどはシベリア抑留の実態に関するものや、抑留経験者の生活や手記に焦点を当てたものである。そのほとんどはシベリア抑留という事件の実態を解き明かすものであり、シベリア抑留のシステムや抑留者たちの生活実態などに関する研究である。また、日ソ交渉に関する研究もあるが、それについても日ソ交渉そのものに焦点を当てた研究となっている。しかし、日本国内の報道機関が行ってきた、シベリア抑留に関する報道に焦点を当てたメディア史研究というのはいまだ数が少ない。そのためシベリア抑留報道に関するメディア史研究を行うことにはある程度の意味があると考えている。

新聞社のシベリア抑留報道に関する論文として、富田武の「新聞報道に見るシベリア抑留—米ソ協調から冷戦へ 1945—1950年」がある。この論文は終戦後から1950年半ばまでの毎日新聞による報道を三つの時期に分けて評価するというものである。この論文において富田は毎日新聞報道に即して検討して、毎日新聞の報道から浮かび上がってくるシベリア抑留に関する一連の動きについて述べている。しかし、あくまで毎日新聞の記事に書かれている内容を当時の歴史的背景に照らし合わせ、そこから浮かび上がってくるシベリア抑留の実態、それが与えた影響に焦点を当てており、毎日新聞そのものや、その報道に関する直接的な言及というのを中心に行われた研究ではない。

この論文の中で富田は、当時のシベリア抑留に関する新聞の報道は限られた情報のなか行われていたという点を大前提として考慮すべきであることを述べており、さらに、毎日新聞記者の栗原俊雄も自身の著書である「シベリア抑留—未完の悲劇—」において当時の報道機関が十分にシベリア抑留に関して報道できていなかったと考えている。本研究は終戦後から50年代にかけての読売新聞のシベリア抑留報道を対象として行うが、本研究においてもこうした事実を踏まえて進めていく必要があると考える。

## II 主題

### 1 章 主題

#### 1. 主題内容

本研究は昭和戦後から50年代にかけての読売新聞におけるシベリア抑留の報道内容に関する調査である。戦後当時の主要メディアである新聞が、シベリア抑留という事件をどのように捉え、取り扱い、人々に発信していたのかを、当時の新聞記事を記事数などについての量的なアプローチと言葉・表現の変遷を読み解く質的なアプローチの二つによって分析する。

#### 2. 主題設定の背景

太平洋戦争末期から終戦後に行われたシベリア抑留は、現在においても語り継がれ、多くのメディアを通して世間に発信され続けているような事件であったにもかかわらず、事実発覚からその直後にかけては、その事実はほとんどわからない状況であり、事実解明にはほど遠い状態であった。現在に至るまでの過程においてその解明は進んできたが、それまでには長い時間がかかり、また十分な解明がされたとは言い難い。

今回シベリア抑留という問題を報道という切り口で研究することには理由がある。シベリア抑留に関する資料、情報の一つとして当時の新聞記事というのは、情報の信憑性、保存状態という点で非常に優れており、そうした新聞記事から浮かび上がってくるシベリア抑留の姿というのもまた、一つのシベリア抑留における事実の一つであると考えられる。シベリア抑留の報道に関するメディア史研究が国内であまり行われていないため、この研究を進めることは、シベリア抑留にまつわる研究において少なからず前進をもたらすことが期待できると考えている。

なので、本研究の目的は戦後以降の読売新聞のシベリア抑留に関する調査によって読売新聞記事上でのシベリア抑留の姿を把握することにある。

### 2 章 対象

#### 1. 対象

本研究では読売新聞のデータベース「ヨミダス歴史館」に存在する記事のうち終戦後から抑留に関する報道が盛んだった終戦後から50年代（1945年8月15日～1959年12月31日）のシベリア抑留に関する読売新聞の記事を対象とする。

#### 2. 対象設定の背景

読売新聞は自社のデータベースである「ヨミダス歴史館」において、シベリア抑留に関する記事を調査することができる。このデータベースでは見出し本文のデジタル文字データは存在するが、記事本文のデジタル文字データはなく、記事ごとにキーワードが登録されており、キーワードを打ち込むことによってそのキーワードに関連する記事を抽出することができる。新聞社のデータベースにおいて同様なシステムを用いているところが多いが、当時の大手新聞社である読売新聞は朝日新聞や毎日新聞な

どに比べて、記事に設定しているキーワードが詳細で、キーワードに紐づけて記事を検索することで、他紙に比べて取りこぼしの少ない正確な調査を行うことができる。また、同年代の毎日新聞の報道に関しては富田が既に研究しており、富田の研究との差別化も含めて読売新聞の記事を調査対象とした。

### 3章 調査方法

本研究読売新聞のデータベース「ヨミダス歴史館」に存在する記事本研究の調査を行いたいと考える。

全体を通して読売新聞データベース「ヨミダス歴史館」のシベリア抑留に関する記事の数に関する調査を行う。このデータベースにおいては検索の方法として「全文検索」と「キーワード検索」が選択できる。記事本文のデジタル文字データはなく、記事ごとにキーワードが登録されており、見出しに関してはデジタル文字データが収録されているため、「キーワード検索」では記事ごとに登録されているキーワードを対象とした検索となる。一方、「全文検索」では、見出しのデジタル文字データのみを検索対象とするため、該当する記事数は少なくなる。また、データベース上に存在する記事には政治、経済、国際などの記事分類がなされている。この分類からも読売新聞がどのようにシベリア抑留を捉えているのかがわかるためこれも活用して調査を行う。この分類においては1つの記事に最大3つまでの分類がつく。これは記事の内容が複数の分野にまたがるためである。検索の対象となる発行形態は「すべて」、検索期間は、日付範囲で西暦1945年8月15日～西暦1959年12月31日とする。

### 4章 仮説

引揚げが開始され始めた当初は、引揚げが行われたとき、政府の発表、動きなどがあつたときには、報道が行われていると思うが、その取り扱い方はシベリア抑留というカテゴリーではなく戦争で各地に散らばった日本人の引揚げ運動の一環として報道しているのではないかと予想する。現在では、日本における抑留問題を語るときにシベリア抑留を指すことや、シベリア抑留に焦点を当てて取り上げることが多いが、当時は抑留に関する報道においてシベリア抑留を特にクローズアップして報道していたわけではないと考えている。シベリア抑留発覚当時は国内に入ってくる情報も少なく、独自に事実解明のために読売新聞が調査報道を行うことなどは難しかったはずである。引揚げで帰還する抑留体験者が増えることや、日ソの政府間での交渉が進むにつれて、ただの引揚げ問題から、シベリア抑留という問題への変化が、抑留体験者に焦点を当てた記事、シベリア抑留に関する日ソ両国政府の交渉などの政治問題など記事などから読み取れてくるのではないかと考える。

また、今でこそ聞きなれた単語である「シベリア抑留」や「抑留」という言葉であるが、現在でも、国際法上ではソ連に連れ去られた日本の軍人は「捕虜」であり、どちらの言葉を用いるべきなのかという点では「抑留」や「捕虜」といった言葉には重要な意味があると考えられる。しかし、読売新聞上では、40年代、50年代においてのシベリア抑留報道には捕虜や抑留といった言葉の使用に統一性などはなく、シベリア抑留報道に捕虜や抑留という言葉が入り混じっているのではないかと考える。

## 本論

### 第1章 引揚げ・捕虜・抑留に関する報道の数

この章では、読売新聞のデータベース上であるヨミダス歴史館を用いて、シベリア抑留報道が引揚げ・捕虜・抑留報道においてどの程度の割合を占めていたのか調査を行う。見出しのみを対象とする全文検索と、記事ごとに設定されているキーワードから検索するキーワード検索を用いて「引揚げ」、「捕虜」、「抑留」とシベリア抑留と関連性の深い言葉を軸に、読売新聞におけるシベリア抑留報道の割合というのを調査する。

#### 1-1 全文検索

まず、引揚げ・抑留に関する記事の総数とそのうちシベリア抑留に関する記事がどの程度締めているのかを調査する。

まず新聞記事の見出しに着目して調査を行う。キーワードを「引揚げ」に設定。見出しに引揚げと含まれている記事の数は743件。キーワードを「引揚げ AND ソ連」に設定。これによって先ほど抽出した743件の記事のうち「引揚げ AND ソ連」という語句が含まれている記事が抽出される。これによって抽出される記事は77件。次にキーワードを「引揚げ AND シベリア」に設定。これによって抽出される記事は6件。最後にキーワードを「引揚げ AND ロシア」に設定。これによって抽出される記事は1件となる。さらに後者3つの記事の被りなどを除いての合計記事数は84件ある。(表1参照)

表1

キーワード	引揚げ	引揚げAND Dソ連	引揚げAND Dシベリア	引揚げAND Dロシア	被りを除いた 合計記事
記事数	743	77	6	1	84

見出しにおいて引揚げという単語が含まれている記事が743件あったことに比べると引揚げとソ連の両方が含まれている記事は約10分の1。引揚げとシベリアの両方が含まれている記事に至っては100分の1以下になっている。見出しで比較してみるならば、シベリア抑留に関連する記事は引揚げ記事全体の約11%となっており、引揚げ報道において中心的な報道であったとは言い難い。

次にキーワードを「捕虜」で設定。見出しに捕虜が含まれている記事の総数は784件。キーワードを「捕虜 AND ソ連」で設定。これで見出しに捕虜が含まれている記事の中から捕虜とソ連の両方が含まれている記事が抽出される。これに該当した記事は41件。キーワードを「捕虜 AND シベリア」に設定。これに該当する記事は11件。キーワードを「捕虜 AND ロシア」に設定。これに該当した記事は1件である。後者3つの記事の被りを除いての合計記事は53件である。(表2参照)

表2

キーワード	捕虜	捕虜AND ソ連	捕虜AND シベリア	捕虜AND ロシア	被りを除いた 合計記事
記事数	784	41	11	1	53

こちら引揚げの記事の時と同様、捕虜が見出しに含まれている記事のうちシベリア抑留に関係するような見出しは6%とかなり少ない。

最後にキーワードを「抑留」で設定。見出しに抑留という語が含まれている記事の数は658件。キーワードを「抑留 AND ソ連」で設定。これによって見出しに658件の記事の中から抑留とソ連の両方が含まれている記事が抽出される。これに該当した記事数は184件。キーワードを「抑留 AND シベリア」で設定。これに該当した記事は34件。キーワードを「抑留 AND ロシア」で設定。これに該当した記事数は0件だった。キーワード「抑留 AND ソ連」と「抑留 AND シベリア」の記事では被りがあったため、被りを除いての合計の記事数は215件になる。(表3参照)

表3

キーワード	抑留	抑留 AN D ソ連	抑留 AN D シベリ ア	抑留 AN D ロシア	被りを除いた 合計記事
記事数	658	184	34	0	215

先ほどの引揚げ、捕虜が見出しに含まれている記事と比べると抑留が見出しに含まれている記事は少ないが、シベリア抑留に関連すると思われる記事の割合は約32%と多くなっている。合計記事の数も215件と引揚げに比べて多く、見出しにおいて抑留とソ連、シベリアなどの語句の組み合わせは引揚げとソ連、シベリアの組み合わせに比べて多かったことがわかる。

見出しにおいて、引揚げ、捕虜という言葉と比べて抑留はソ連、シベリアなどの言葉と組み合わせでの見出しを作られることが多いことがわかる。

## 1-2 キーワード検索

全文検索を用いての見出しだけに着目した調査では、引揚げが見出しに含まれる記事のうち約11%の記事がシベリア抑留の見出しの記事。捕虜に関係する記事のうち約6%の記事がシベリア抑留に関係する見出しの記事。抑留が見出しに含まれる記事のうち約32%の記事がシベリア抑留に関連する見出しの記事であったことがわかった。しかし、この検索方法では見出しに引揚げ、捕虜、抑留という語が入っていないが引揚げ、捕虜、抑留に関する記事を取りこぼしてしまうことや、記事内容に関する要素が抜け落ちているため情報としては信用性が低い。そこでさらに詳しく調査するためキーワード検索を用いて調査を行う。

終戦後から50年代(1945年8月15日~1959年12月31日)に書かれた記事の総数は840654件。そのうち「引揚げ」をキーワードに設定して検索を行って抽出された記事は6186件ある。まず、この6186件の中からシベリア抑留に関係するものを抽出していく。まず、キーワードを「引揚げ AND ソ連」で設定。これでキーワード検索を行うと1588件の記事が該当する。次にキーワードを「引揚げ AND シベリア」で設定。これによって849件の記事が該当する。そして最後にキーワードを「引揚げ AND ロシア」で設定する。これには35件の



記事が該当する。これら三つの記事には被りがあるため、かぶった記事を除いて合計した数は1771件ある。(表4参照)

表4

キーワード	引揚げ	引揚げ AND ソ連	引揚げ AND シベリア	引揚げ AND ロシア	被りを除いた合計記事
記事数	6186	1588	849	35	1771

先ほどの全文検索で見出しだけに着目した調査と比較して全てのキーワードにおいて記事数が大幅に増大した。これにより先ほどの結果よりもより正確な結果が得られる。この結果からキーワードが引揚げに設定されている記事6186件に対してキーワードでシベリア抑留に関係するものが設定されている記事の数は1771件あり、約29%が引揚げ報道においてシベリア抑留もしくはそれに関連するものであることがわかる。見出しに着目した調査と比較するとシベリア抑留が占める割合の数値が増加した。

キーワードを「捕虜」という単語でキーワード検索を行って抽出された記事は2791件。さらにこの2791件の記事からシベリア抑留に関係するものを抽出していく。まず、キーワードを「捕虜 AND ソ連」で設定。これでキーワード検索を行うと669件の記事が該当する。次にキーワードを「捕虜 AND シベリア」で設定。これによって196件の記事が該当する。そして最後にキーワードを「抑留 AND ロシア」で設定する。これには9件の記事が該当する。これら三つの記事には被りがあるため、かぶった記事を除いて合計した記事の数は700件ある。(表5参照)

表5

キーワード	捕虜	捕虜 AND ソ連	捕虜 AND シベリア	捕虜 AND ロシア	被りを除いた合計記事
記事数	2791	669	196	9	700

これも全文検索のときに比べて該当する記事数が多くなっている。キーワードが捕虜に設定されている2791件の記事に対して、シベリア抑留もしくはそれに関係する記事は700件で、捕虜に関する記事のうち約25%である。

キーワードを「抑留」という単語でキーワード検索を行って抽出された記事は3991件。さらにこの3991件の記事からシベリア抑留に関係するものを抽出していく。まず、キーワードを「抑留 AND ソ連」で設定。これでキーワード検索を行うと1941件の記事が該当する。次にキーワードを「抑留 AND シベリア」で設定。これによって978件の記事が該当する。そして最後にキーワードを「抑留 AND ロシア」で設定する。これには35件の記事が該当する。これら三つの記事には被りがあるため、かぶった記事を除いて合計した記事の数は2106件ある。

(表6参照)

表6

キーワード	抑留	抑留 AND ソ連	抑留 AND シベリア	抑留 AND ロシア	被りを除いた合計記事

記事数	3991	1941	978	35	2106
-----	------	------	-----	----	------

こちらの結果も引揚げに関する調査の時と同様に全てのキーワードにおいて記事数が増大し、より正確な結果が得られると言える。キーワードが抑留に設定される記事3991件に対して、シベリア抑留に関係するものがキーワードに設定されている記事は2106件で、抑留に関係する記事のなかで約52%がシベリア抑留もしくはそれに関連するものであることがわかる。こちらも全文検索で見出しだけに着目した調査に比べてシベリア抑留が占める割合の数値が増大している。

### 1-3 まとめ

キーワードが引揚げと設定されている記事のうち約29%の記事がシベリア抑留もしくはそれに関係するものである。キーワードが捕虜と設定されている記事のうち約25%がシベリア抑留もしくはそれに関係するものである。そして、キーワードが抑留と設定されている記事のうち約52%の記事がシベリア抑留もしくはそれに関係するものである。読売新聞のデータベース上において引揚げと捕虜がキーワードに設定されている記事のなかでは、シベリア抑留もしくはそれに関連するものはそれぞれ約29%と25%であり、抑留に比べると少ない数値になっている。この数値と引揚げ、捕虜に関する報道はシベリアを中心とした地域以外にも中国、朝鮮、東南アジアなど様々な地域で行われていたことや、日本の邦人、軍人以外にも他国の邦人、軍人の引揚げ、捕虜に関する報道も確認できることを踏まえると引揚げや捕虜の報道においてシベリア抑留というのが中心的な問題ではなかったと言えるだろう。しかし、抑留報道に関するものに関しては半数近くがシベリア抑留報道であることを踏まえると、読売新聞においてシベリア抑留は抑留報道において報道に値する内容が多くあったことがわかる。引揚げ、捕虜の報道と抑留報道の中でシベリア抑留が占めている割合に差が生まれた理由と、シベリア抑留に関係するものがこれだけ報道されていた理由についてはこの調査では十分にはわからないが、読売新聞の抑留報道においてシベリア抑留とそれに関する報道の占める割合が比較的大きかったことは言えるだろう。現在抑留問題を語る際には、日本の抑留問題に焦点が当たる時には、シベリア抑留を指すことが多いが、終戦後から50年代までにかけてでも抑留問題を語る際にシベリア抑留は取り上げられていたことがわかる。こうしたことを踏まえると読売新聞は引揚げ、捕虜という観点ではシベリア抑留の問題を特別視はしていないが、シベリア抑留という問題が抑留報道の中でも日本国内で報道すべき内容であること、シベリア抑留という問題を取り上げるべきであるとは考えていたことが予測できる。しかし、このことは新聞記事の量的調査からではあくまで予測の域を出ないという点も付け加えておく。

## 第2章 引揚げ・捕虜・抑留に関する記事の分類

この章ではヨミダス歴史館上の記事分類をもとに引揚げ・捕虜・抑留報道の記事の分類に関する調査を行う。ヨミダス歴史館に存在する記事には政治、経済、国際などの記事分類がなされている。この分類をもとに読売新聞がシベリア抑留という問題をどんな属性の問題として報道をしていたのかということを読み解く。

### 2-1 大分類

ヨミダス歴史館の大分類に則り、分類は「経済」、「スポーツ」、「生活」、「科学」、「皇室」、「政治」、「社会」、「文化」、「事件・事故」、「国際」、「社説」に設定する。さらに該当する記事が多かった分類は詳細分類を設定することでさらに細分化する。合わせて検索する単語は「引揚げ」、「引揚げ AND ソ連」、「引揚げ AND シベリア」、「捕虜」、「捕虜 AND ソ連」、「捕虜 AND シベリア」、「抑留」、「抑留ANDソ連」、「抑留ANDシベリア」とする。先ほどの調査で「引揚げ AND ロシア」、「捕虜 AND ロシア」、「抑留ANDロシア」がキーワード検索でヒットする記事の件数がかなり少ないので省く。

まず、引揚げに関する記事について調査する。

全文検索を用いて見出しに含まれている単語から記事の分類をまとめる。キーワードごとの大分類でまとめたものが以下の表である。（表1参照）

表1 a

キーワード/大分類	経済	スポーツ	生活	科学	皇室	政治
引揚げ	108	5	17	6	1	566
引揚げANDソ連	4	1	0	1	0	64
引揚げANDシベリア	0	0	0	0	0	6

表1 b

キーワード/大分類	社会	文化	事件・事故	国際	社説
引揚げ	197	8	35	571	3
引揚げANDソ連	21	0	0	74	0
引揚げANDシベリア	4	0	0	6	0

引揚げが見出しに含まれている記事においては政治と国際に分類される記事が目立って多く、次いで社会と経済に分類される記事が多い。引揚げとソ連もしくはシベリアが含まれる記事では元の母数が少ないため分りにくいが、政治、社会、国際に分類される記事が多いことがわかる。

検索方法をキーワード検索にして大分類ごとにまとめたものが以下の表である。（表2参照）

表2 a

キーワード/大分類	経済	スポーツ	生活	科学	皇室	政治
引揚げ	1074	33	402	29	42	5270

引揚げANDソ連	126	10	31	6	4	1479
引揚げANDシベリア	71	8	24	4	2	837

表 2b

キーワード/大分類	社会	文化	事件・事故	国際	社説
引揚げ	2077	168	371	3859	49
引揚げANDソ連	491	24	56	1357	21
引揚げANDシベリア	301	9	30	701	11

先ほどの全文検索と比較するとキーワード検索によってより全てのキーワードで多くの記事が抽出された。引揚げがキーワードに設定されている記事においては5270件と政治に分類されているものが一番多く、次いで国際、社会が多くなる。引揚げとシベリア抑留に関連する単語がキーワードに設定されている記事でも同様の傾向が確認できる。

次に、捕虜に関する記事について調査する。

まず、全文検索を用いて見出しに含まれている単語から記事の分類をまとめる。キーワードごとの大分類でまとめたものが以下の表である。（表3参照）

表 3a

キーワード/大分類	経済	スポーツ	生活	科学	皇室	政治
捕虜	6	0	6	1	0	711
捕虜ANDソ連	1	0	1	0	0	33
捕虜ANDシベリア	0	0	0	0	0	6

表 3b

キーワード/大分類	社会	文化	事件・事故	国際	社説
捕虜	36	16	4	755	0
捕虜ANDソ連	2	0	0	41	0
捕虜ANDシベリア	1	0	0	6	0

捕虜が見出しに含まれる記事は政治、国際に分類される記事が多い。引揚げと比較してみると、経済に分類される記事は少ない。続いてキーワード検索でさらに対象とする記事数を増やす。キーワード検索を用いてまとめたものが以下の表である。（表4参照）

表4a

キーワード/大分類	経済	スポーツ	生活	科学	皇室	政治
捕虜	65	2	22	3	8	2479
捕虜ANDソ連	13	1	2	1	2	555
捕虜ANDシベリア	6	1	1	0	0	183

表4b

キーワード/大分類	社会	文化	事件・事故	国際	社説
捕虜	246	84	69	2569	30
捕虜ANDソ連	85	16	30	602	14
捕虜ANDシベリア	50	7	7	166	3

捕虜に関しても、引揚げと同様に、政治、国際に分類される記事が圧倒的に多く次いで社会に分類される記事が多く存在する。また、それはシベリア抑留もしくはそれに関係するものでも同じ傾向にあると言える。

最後に、抑留に関する記事について調査する。

まず、全文検索用いて見出しに含まれている単語から記事の分類をまとめる。キーワードごとの大分類でまとめたものが以下の表である。（表5参照）

表5a

キーワード/大分類	経済	スポーツ	生活	科学	皇室	政治
抑留	196	0	13	3	1	504
抑留ANDソ連	34	0	5	0	0	158
抑留ANDシベリア	0	0	0	0	0	33

表 5b

キーワード/ 大分類	社会	文化	事件・ 事故	国際	社説
抑留	154	75	20	604	75
抑留ANDソ 連	44	1	4	177	0
抑留ANDシ ベリア	18	0	2	32	0

こちらも引揚げ、捕虜に関する調査と同様に政治、社会、国際に分類される記事が多い。

検索方法をキーワード検索にして大分類ごとにまとめたものが以下の表である。  
(表 6 参照)

表 6 a

キーワード/ 大分類	経済	スポーツ	生活	科学	皇室	政治
抑留	605	13	105	16	6	3431
抑留AND Dソ連	194	8	35	7	3	1771
抑留AND Dシベリ ア	61	7	23	2	2	926

表 6 b

検索ワード/ 大分類	社会	文化	事件・事故	国際	社説
抑留	1129	79	122	3486	51
抑留AND ソ連	528	34	34	1749	33
抑留AND シベリア	335	22	31	797	14

全文検索のときと同様にキーワード検索でも全体の記事数は増加したが、政治、社会、国際に分類される記事が多い。

このように全てのキーワードにおいて全文検索、キーワード検索どちらの検索方法を用いても大分類のほとんどが、「政治」、「社会」、「国際」に占められているこ

とがわかる。また、引揚げ・抑留全体についての記事でもこの3つの分類に当てはまることが多いという傾向がある。

次からは、この3つの大分類から詳細分類を選択して、シベリア抑留に関する記事の分類について詳しく調査していく。

用いる検索方法はキーワード検索、検索するキーワードは「引揚げ AND ソ連」、「引揚げ AND シベリア」、「捕虜 AND ソ連」、「捕虜 AND シベリア」、「抑留ANDソ連」、「抑留ANDシベリア」とする。

## 2-2 政治

まず、大分類を政治に選択、大分類の中の詳細分類「政治」、「行政」、「警察」、「戦争」、「右翼左翼」、「地方」、「日本外交」、「選挙」、「司法」、「軍事」それぞれに該当する記事をまとめたものが以下の表である。（表1参照）

表1a

キーワード /詳細分類	政治	行政	警察	戦争	右翼左翼
引揚げAND ソ連	244	121	3	1309	54
引揚げAND シベリア	104	48	3	800	32
捕虜AND ソ連	89	23	0	515	14
捕虜AND シベリア	21	7	1	171	4
抑留AND ソ連	257	171	7	1432	42
抑留AND シベリア	126	59	5	861	36

表1b

キーワード /詳細分類	地方	日本外交	選挙	司法	軍事
引揚げAND ソ連	15	184	1	6	151
引揚げAND シベリア	10	50	0	8	131
捕虜AND ソ連	2	47	1	1	66
捕虜AND シベリア	2	13	0	4	48
抑留AND ソ連	9	410	1	12	169

抑留AND シベリア	9	106	0	13	140
---------------	---	-----	---	----	-----

詳細分類で「戦争」、「狭い意味での政治」、「日本外交」に該当する記事が多く、特に「戦争」に該当する記事は他に比べて圧倒的に多い。戦争に関する分類が圧倒的に多くなっている理由としては、一つの記事に最大で3つまで詳細分類をタグ付けされているため自然と戦争のタグがついたものが多くなっていることが予測できる。だが、このことから読売新聞がシベリア抑留問題を戦争と関連が深いと考えていたことが言える。また、「政治」、「日本外交」に該当する記事も多く存在する。特に、「抑留 AND ソ連」のキーワードで抽出される日本外交に分類される記事は410件と他に比べて多く、抑留という言葉が、引揚げ、捕虜などの言葉と比べて外交と深い関係があったことが伺える。シベリア抑留を巡る国内政治の動きや日本外交と絡めた問題にも焦点を当てて報道を行っていたことが伺える。

### 2-3 社会

次に大分類を「社会」に選択、詳細分類「社会」、「環境」、「中高年」、「教育」、「市民運動」、「婦人」、「勲章、賞」、「社会保障」、「子供」、「労働」それぞれ該当する記事を調査する。まとめたものが以下の表である（表1参照）

表1a

キーワード /詳細分類	社会	環境	中高年	教育	市民運動
引揚げAND Dソ連	430	0	0	7	20
引揚げAND Dシベリア	252	0	0	11	19
捕虜AND ソ連	64	0	0	2	11
捕虜AND シベリア	34	0	0	3	12
抑留AND ソ連	447	0	0	10	32
抑留AND シベリア	278	0	0	11	28

表1b

キーワード /詳細分類	婦人	勲章、賞	社会保障	子供	労働
引揚げAND Dソ連	8	2	20	1	12
引揚げAND Dシベリア	9	0	8	5	5
捕虜AND ソ連	2	1	5	1	1



捕虜AND シベリア	0	1	1	1	0
抑留AND ソ連	11	4	25	1	8
抑留AND シベリア	10	2	10	8	6

詳細分類で、狭い意味での「社会」に該当する記事が多いことがわかる。「社会」の次に多いのが「市民運動」や「社会保障」に分類される記事であるが、「社会」に比べると圧倒的に少ないため、詳細分類ではほとんどの全ての記事が「社会」に該当すると言っていいだろう。これよりシベリア抑留が起点となつての社会的出来事の報道が行われていたことが読み取れるが、そこから派生しての細かな社会の動きというのはあまり報道していなかったとも考えられる。

#### 2-4 国際

最後に大部分「国際」を選択、詳細分類「国際」、「西欧」、「アフリカ」、「アジア・太平洋」、「旧ソ連・東欧」、「南北アメリカ」、「中東」それぞれに該当する記事を調査する。まとめたものが以下の表である。（表1参照）

表1

キーワード/詳細分類	国際	西欧	アフリカ	アジア・太平洋	旧ソ連・東欧	南北アメリカ	中東
引揚げANDソ連	190	43	1	134	1229	49	10
引揚げANDシベリア	87	7	0	47	646	9	0
捕虜ANDソ連	200	93	1	146	443	85	1
捕虜ANDシベリア	45	4	0	11	141	11	0
抑留ANDソ連	220	90	0	134	1601	79	1
抑留ANDシベリア	109	9	0	48	742	18	0

詳細分類「旧ソ連・東欧」に該当する記事が圧倒的に多い、続いて狭い意味での「国際」や「アジア・太平洋」の記事が多い。これはシベリア抑留がソ連を中心としたアジア圏で行われていたことが原因であると考えられる。

## 2-5 まとめ

ここまで読売新聞のデータベースヨミダス歴史館における引揚げ・捕虜・抑留報道、シベリア抑留報道の分類についての調査結果を踏まえて結果をまとめると、シベリア抑留だけに限らず引揚げ・捕虜・抑留の読売新聞における報道では「政治」、「社会」、「国際」の領域に深く関係したものと考えられていたことがわかる。シベリア抑留の報道に絞って考えるなら当然のことであるが「戦争」、「旧ソ連・東欧」に紐づけられた記事が多く存在する。これは一つの記事に最大3つまで分類が設定されることが大きく関係していると予想される。しかし、このことから読売新聞がシベリア抑留問題を戦争から派生した問題であり、戦争との関連性が高いと考えていたことがわかる。そして、戦争から派生した問題と位置付けつつ、そこから国内の政治、外交、社会の観点からの報道を行っていたことが読み取れるだろう。

## 第3章 年代での変化

前章で、記事の分類を調査することで、読売新聞がシベリア抑留の報道をどう位置付けていたかを明らかにした。さらに、この章では時間の経過とともにシベリア抑留報道の扱い方に違いがあるか、違いがあるとすればどういった特徴があるかということについて調査する。

### 3-1 記事数の変化

まずキーワード検索を用いて、一年ごとの記事の数を調査する。検索するキーワードは「引揚げ AND ソ連」、「引揚げ AND シベリア」、「捕虜 AND ソ連」、「捕虜 AND シベリア」、「抑留 AND ソ連」、「抑留 AND シベリア」と設定。そして期間は一年ごとでまとめる。ただし、1945年は終戦後からになるので8月15日から12月31日までとする。まとめたものが以下の表である。（表1参照）

表1a

キーワード/ 年代	194 5年代	194 6年代	194 7年代	194 8年代	194 9年代	195 0年代	195 1年代	195 2年代
引揚げ AND ソ連	2	63	41	53	255	270	43	40
引揚げ AND シベ リア	0	23	32	38	242	162	30	13

捕虜ANDソ連	0	9	5	10	84	157	48	89
捕虜ANDシベリア	0	7	6	6	38	50	24	7
抑留ANDソ連	3	21	23	33	240	231	60	64
抑留ANDシベリア	0	19	16	31	214	179	43	24

表 1b

キーワード/年代	1953年代	1954年代	1955年代	1956年代	1957年代	1958年代	1959年代
引揚げANDソ連	180	68	162	248	98	55	10
引揚げANDシベリア	86	32	63	93	16	28	3
捕虜ANDソ連	143	25	63	23	12	1	0
捕虜ANDシベリア	37	3	7	7	3	0	1
抑留ANDソ連	252	83	279	443	110	67	32
抑留ANDシベリア	126	36	81	156	21	29	3

全てのキーワードにおいて、49年代～50年代にかけて、53年代、55年代～56年代にかけて記事が増加する傾向がみられる。49年代～50年代では、特にキーワードが引揚げ、捕虜に設定されているシベリア抑留の報道が、55年代～56年代にかけては抑留がキーワードに設定されているシベリア抑留の増加が目立つ。

### 3-2 49年代～50年代

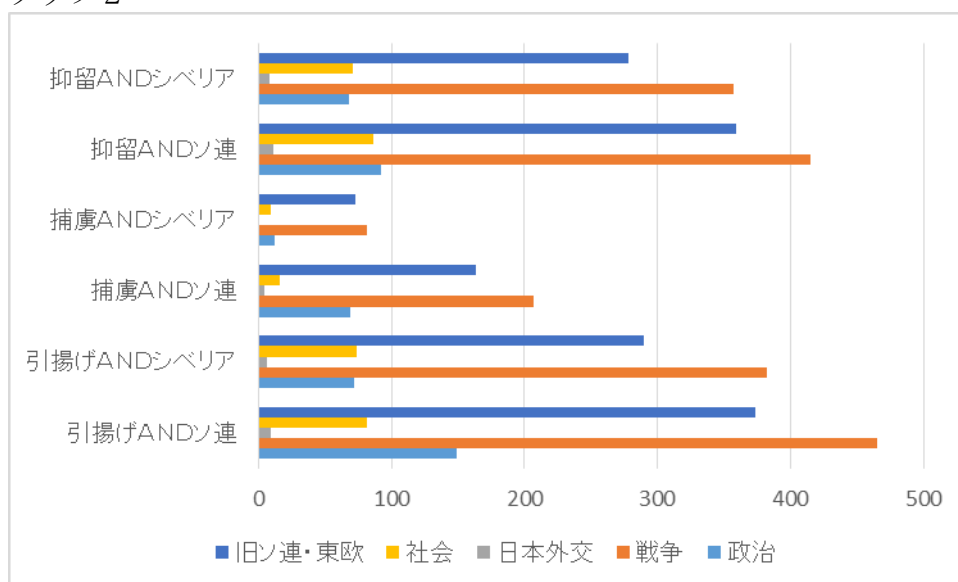
続いて増加傾向があった49年代～50年代にかけてのシベリア抑留の報道に関して詳細分類を用いて調査する。検索期間は1949年1月1日～1950年12月3

1日、キーワードは「引揚げ AND ソ連」、「引揚げ AND シベリア」、「捕虜 AND ソ連」、「捕虜 AND シベリア」、「抑留 AND ソ連」、「抑留 AND シベリア」、前章の調査で該当する記事の多かった詳細分類である「政治」、「戦争」、「日本外交」、「社会」、「旧ソ連・東欧」のそれぞれに該当する記事の数を調査する。まとめたものが以下の表である。（表2参照、グラフ2参照）

表 2

キーワード / 詳細分類	政治	戦争	日本外交	社会	旧ソ連・東欧
引揚げANDソ連	149	465	9	81	374
引揚げANDシベリア	72	382	6	74	290
捕虜ANDソ連	69	207	4	16	163
捕虜ANDシベリア	12	81	0	9	73
抑留ANDソ連	92	415	11	86	359
抑留ANDシベリア	68	357	8	71	278

グラフ 2



詳細分類に該当する記事の数を見てみると当然ながら戦争、旧ソ連・東欧に該当する記事が多い。また、日本外交に関する記事が圧倒的に少ないことがわかる。しかし、国内政治に該当する記事は比較的多く、徳田要請問題に関する記事が多く書かれている。また、社会に該当する記事では引揚げを待つ家族に当てた記事なども書かれており、ただの引揚げに関する情報一辺倒の報道ではないことがわかる。

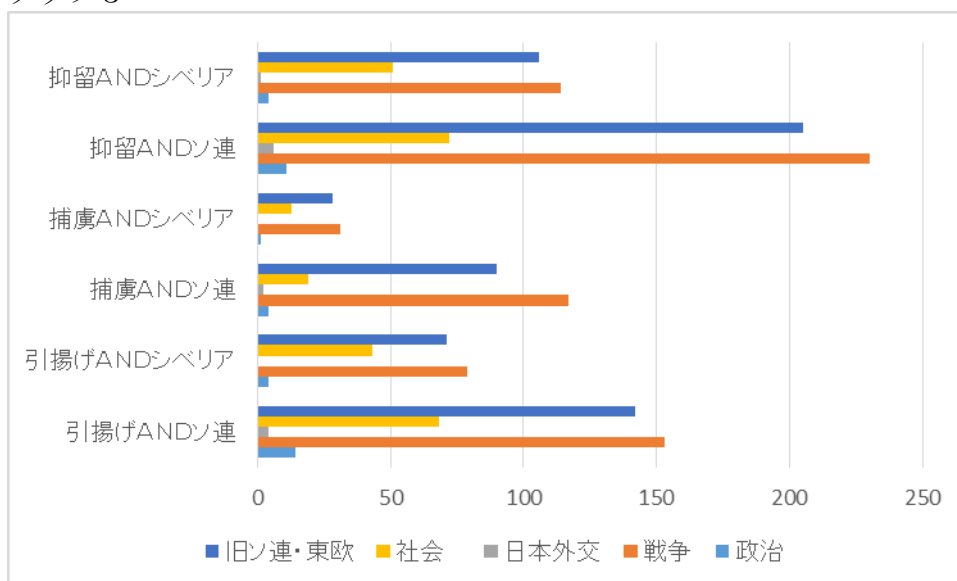
### 3-3 53年代

続いて53年代に関しても3-2で行った調査と同様の調査を行いまとめたものが以下の表である。(表3参照、グラフ3参照)

表3

キーワード /詳細分類	政治	戦争	日本外交	社会	旧ソ連・東 欧
引揚げAND Dソ連	14	153	4	68	142
引揚げAND Dシベリア	4	79	0	43	71
捕虜AND ソ連	4	117	2	19	90
捕虜AND シベリア	1	31	0	13	28
抑留AND ソ連	11	230	6	72	205
抑留AND シベリア	4	114	1	51	106

グラフ3



この年代では国内政治に該当する記事は減り、社会に該当する記事の割合が増える。この年代になるとただの引揚げに関する報道の数は減っている。社会に該当する記事では、帰還者や抑留経験者の家族に焦点を当てた記事も複数確認できるようになる。抑留発覚から時の経過とともに、中々引揚げが進まないことに関する問題として帰りを待つ遺族や、やっと帰ることができた帰還者に焦点を当てることで、ただの引揚げに関する報道をしていた頃と比較すると重厚的な構造の記事が増えている。

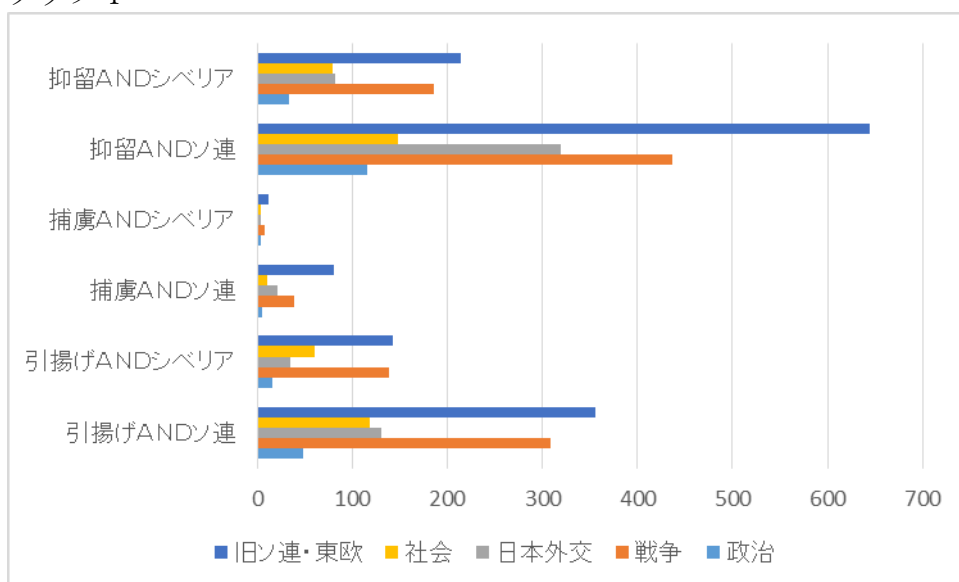
### 3-4 55年代～56年代

最後に55年代～56年代にかけて同様の調査を行う。まとめたものが以下の表である。（表4参照、グラフ4参照）

表4

キーワード/詳細分類	政治	戦争	日本外交	社会	旧ソ連・東欧
引揚げANDソ連	48	309	130	118	356
引揚げANDシベリア	15	139	34	60	142
捕虜ANDソ連	5	39	21	10	80
捕虜ANDシベリア	3	8	4	3	11
抑留ANDソ連	115	437	319	148	645
抑留ANDシベリア	33	186	82	79	214

グラフ4



この年代では他の年代とは異なり、日本外交の記事の増加が目立つ、またキーワードに捕虜が設定されたシベリア抑留の記事は減り、抑留がキーワードに設定された記事の多さが目立つ。日本外交では日ソ交渉に絡めた記事が多く展開され、シベリア抑留単体の問題から複雑化した内容の記事への変化がみられる。社会に分類される記事

では引き続き帰還した抑留経験者とその家族に関する記事が確認でき、抑留残留者、帰国者、死亡者の名簿などに関する記事も確認できるようになる。

### 3-5 まとめ

この章では時間的な経過における、読売新聞のシベリア抑留の報道を調査したが、記事の数としては49年代から50年代にかけて、53年代、55年代から56年代にかけて記事の数が増加する傾向があった。もちろん新聞は世の中で起こる出来事を報じるため、この時期にシベリア抑留に関連する出来事が多くあったという点、時の経過とともに情報量が増えたという点は無視できないが、シベリア抑留における報道が時間経過に従って、様々な領域において報道されていたと言えるだろう。シベリア抑留という出来事、引揚げに関する情報をただ淡々と報じるだけではなく、そこから派生する問題まで含めた報道がなされている。このことより、読売新聞はシベリア抑留という問題をただの終戦後の抑留・引揚げ問題というだけではなく、広く展開される問題として捉えていたのではないかと考察できる。

## 第4章 見出しに含まれる単語

この章では読売新聞で用いられる単語に着目しての調査を行う。特に捕虜と抑留といった言葉はシベリア抑留において大きな意味を持つ。栗原俊雄は自身の著書の中でこう主張している。「ソ連に連れ去られた日本の軍人たちは、国際法上の「捕虜」であり、日本政府もそれを認めている。しかし、帰還後、「捕虜ではなく抑留者」と主張する旧軍関係者も少なくない。(中略) 捕虜になることを不名誉、もしくは死に値することと教えられ、信じてきた人々が、「自分たちは捕虜でない」と主張するのは自然ではある。」(栗原俊雄著「シベリア抑留—未完の悲劇」岩波新書p.36) 現在では行政文書や出版物などでも一般的に「抑留者」という語が用いられ、ソ連による抑留を「シベリア抑留」と呼んでいる。しかし、当時の読売新聞において、これまでの調査でも、捕虜がキーワードに設定されている記事の中にもある程度シベリア抑留に関連する記事が存在していることや、シベリア抑留に関連する記事でも捕虜と抑留の統一性が感じられないことを考えると捕虜と抑留に明確な区別をもって記事が書かれていなかった可能性がある。こうしたことを踏まえて、読売新聞の見出しにおける捕虜、抑留という単語の取り扱い方と、読売新聞における捕虜、抑留という言葉の関係性について調査する。

### 4-1 見出し

まずは、新聞において重要な意味を持つ見出しに着目した調査を行う。見出しはデータベース上でデジタルデータとして保存されているが、本文に含まれている単語はデジタルデータ化されていないため調査の正確性を重視するという観点からもこの調査では見出しに焦点を絞る。シベリア抑留と関連性が高い単語である「捕虜」、抑留」を終戦後から50年代にかけて(1945年8月15日～1959年12月31日)その単語が初めて登場する時期を調査する。

「捕虜」という単語が見出しに含まれる記事の総数は784件。シベリア抑留に係る記事で初めて捕虜という単語が見出しに使われた記事は1947年4月4日朝刊1面の「在ソ日本捕虜の情報 マ長官要求」である。この記事の内容を要約すると

マーシャル米国务長官が、ソ連軍が満州から連れ去った推定70万人の日本人捕虜に関する情報をモロトフ外相に要求したというものである。

「抑留」という単語が見出しに含まれる記事の総数は658件。シベリア抑留に関する記事で初めて引揚げという単語が見出しに使われた記事は、1945年9月7日朝刊1面「山田大将、秦中将抑留」である。記事内容の要約はモスクワ放送で赤軍が、関東軍司令官山田大将と秦中将を抑留した旨が発表されたというものである。

抑留という単語は捕虜に比べると100件以上登場回数が少ないが、シベリア抑留に関係する記事の見出しとして使用されるのは捕虜よりも早い。また現在の一般的な呼称である「シベリア抑留」という単語が紙面上の見出しに使われたことは一度もない。これまでの調査で抑留という単語とシベリアという単語それぞれが含まれた見出しというのが存在することは確認できている。

#### 4-2 時期ごとの変化

次に、「捕虜」と「抑留」が含まれる記事の数が一年ごとにどの程度変化していくのかについて調査する。1945年代は終戦後からのため1945年8月15日から1945年12月31日まで、それ以降は1月1日から12月31日からの期限で区切って件数をまとめる。まとめたものが以下の表である。(表1参照)

表1a

キーワード/年代	1945年代	1946年代	1947年代	1948年代	1949年代	1950年代	1951年代
捕虜	10	7	9	7	23	57	60
抑留	11	13	3	5	34	31	21

表1b

キーワード/年代	1952年代	1953年代	1954年代	1955年代	1956年代	1957年代	1958年代	1959年代
捕虜	146	317	95	26	13	2	2	10
抑留	35	88	34	86	113	51	53	80

そして、この表をもとに「捕虜」と「抑留」の記事数の増減を見るために折れ線グラフにする。(表2、3参照)



表2 捕虜の折れ線グラフ

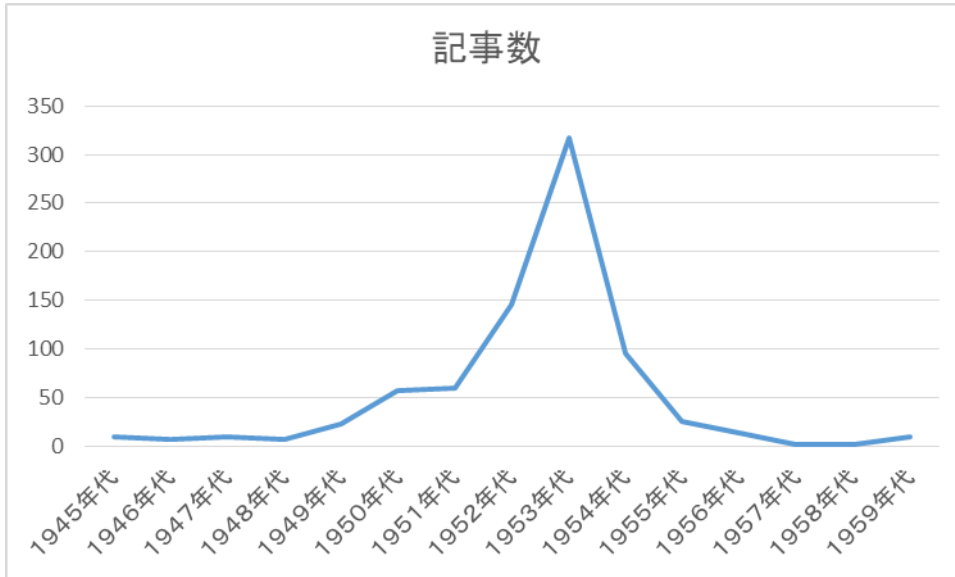
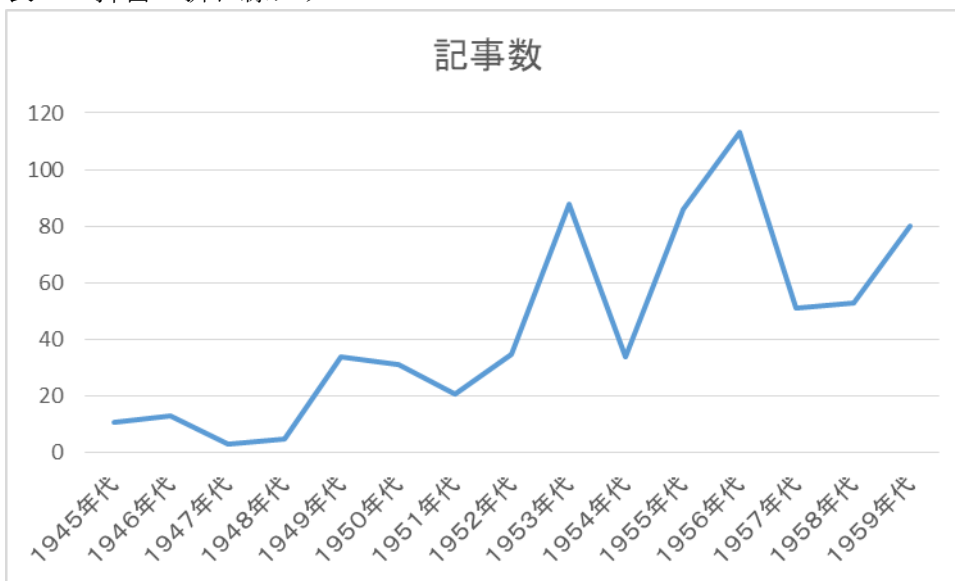


表3 抑留の折れ線グラフ



捕虜という単語は1952年代から1953年代にかけて爆発的に増加するがそれ以外の時期ではあまり見出しに使われていない傾向にある。その一方で抑留という単語は、増減の波はあるが終戦後から50年代にかけて時間の経過とともに、増加していることがわかる。捕虜と同じく1952年代から1953年代の時期に増加数は少ないが、同じように増加傾向がある。また、1955年代から1956年代にかけても増加傾向がある。

4-3 52年代～53年代、55年代～56年代

ここまでの調査で捕虜と抑留の単語が含まれる見出しの増減について調査したが、その増減には特徴的なものがあることがわかった捕虜に関しては52年代から53年代にかけて、抑留では同じく52年代から53年代にかけて、そして55年代から56年代にかけても増加傾向がある。しかし、捕虜に関しては見出しの増加にシベリア抑留が大きく関係しているとは考えにくい。キーワード検索を用いてこの時期の「捕虜」、「捕虜 AND 朝鮮戦争」、「捕虜 AND ソ連」、「捕虜 AND シベリア」のキーワードに該当する記事を比較してみると「捕虜」が1196件、「捕虜 AND 朝鮮戦争」が930件、「捕虜 AND ソ連」が232件、「捕虜 AND シベリア」が44件であり、シベリア抑留によって見出しに捕虜という単語が増加しているとは言えない。抑留に関しては、キーワード検索を用いてこの年代の「抑留」、「抑留 AND ソ連」、「抑留 AND シベリア」のキーワードに該当する記事の数は、「抑留」が706件、「抑留 AND ソ連」が316件、「抑留 AND シベリア」であり、抑留という単語が含まれる見出しが増加したことにシベリア抑留が関係していると考えられる。55年代から56年代では、「抑留」は1275件、「抑留 AND ソ連」は722件、「抑留 AND シベリア」は237件であり、こちらでも抑留という単語が見出しにおいて増えたことにシベリア抑留が関係していると言えるだろう。また、前章の調査でこの時期にシベリア抑留の記事が増加していることも明らかになっている。読売新聞において、「捕虜」という単語とシベリア抑留に深い関係性は確認できず、捕虜という言葉が特別シベリア抑留に関する記事で見出しに使われることはない。「抑留」という単語とシベリア抑留では関係性が確認でき、抑留という単語がシベリア抑留に関する記事の見出しに含まれていることも多い。

#### 4-4 まとめ

読売新聞において、終戦後から「捕虜」、「抑留」という言葉が見出しで使われた始めた時期や使われた回数には大きな違いはないが、見出しに使われる頻度の波にはそれぞれ特徴がある。捕虜が52年代から53年代にかけて急激に見出しに使われる回数が増加する傾向があり、他の年代ではあまり変化がないのに対し、抑留という単語は見出しにおいて波はあるものの時間の経過とともに増加していく傾向がある。捕虜という言葉とシベリア抑留には強い関係性は見られなかったが、抑留という単語は見出しにおいて、シベリア抑留の記事でよく使われる傾向があり、読売新聞はシベリア抑留と、抑留という単語には深い関係性をもって報じていたのではないかと考察できる。しかし、本研究では読売新聞がどういった意図をもって抑留という言葉がシベリア抑留報道において用いていたのかは解明できない。

## 終章 結論

これまでの調査結果からわかったことをまとめると以下の4点が明らかになる。

1. 読売新聞の引揚げ報道におけるシベリア抑留に関するものは約3割、抑留報道ならば約5割程度となる。読売新聞の引揚げ・抑留報道において、シベリア抑留という題材は比較的多く取り上げられており、シベリア抑留は読売新聞の引揚げ・抑留報道の中で報道に値することが多かった、もしくは読売新聞が重要視していた事柄である。
2. 読売新聞はシベリア抑留報道を広い意味で政治・社会・国際の領域に属するものと位置付けており、詳細な分類では戦争、東欧・旧ソ連と深い関係があると位置づけつつも、政局、国会、政党などの狭い意味での日本政治、日本外交、日本社会の観点での報道も多く行われていた。
3. 読売新聞において49年代から50年代にかけて、53年代、55年代から56年代にかけて記事の数が増加する傾向がある。そして、時間の経過とともにシベリア抑留から派生する問題まで含め報じるようになり、シベリア抑留という問題を広く見ていたのではないかと考察できる。
4. 読売新聞において、終戦後から「捕虜」、「抑留」という単語が見出しに使われる頻度の波にはそれぞれ特徴がある。特に抑留という単語は時間の経過とともに増加していく傾向がある。捕虜という言葉とシベリア抑留には強い関係性は見られなかったが、抑留という単語は見出しにおいて、シベリア抑留の記事でよく使われる傾向がある。

## おわりに

私は元々メディアをテーマにした研究を行いたいと漠然と考えていたが、そんな時に小熊先生の「生きて帰ってきた男 ―ある日本兵の戦争と戦後」を読み、シベリア抑留という問題にも関心を持ち、シベリア抑留に関するメディアの報道について研究を行おうと思ったことが本研究の出発点である。研究を進めていく中で、シベリア抑留をはじめとした人類史の悲劇というものを風化させてはならないことを深く実感した。また、そうしたことを人々に伝え続けてくれるメディアという存在の重要性も再認識することができた。

最後に謝辞を。漠然なイメージしか抱けていなかった私が、拙い内容ではあるが、研究として具体的な形を持てたことは小熊先生の的確なご指導のおかげであると思っています。本当にありがとうございました。また、研究会の皆さまも多くの意見を提供していただきありがとうございました。私一人ではこの論文は完成していなかったと思います。私の今回の論文がシベリア抑留、シベリア抑留報道研究の発展につながるかはわかりませんが、願わくば、この論文で少しでもシベリア抑留に関心を持ってくれる人間があらわれることを。

## 参考文献

- 小熊英二 「生きて帰ってきた男 ―ある日本兵の戦争と戦後」 岩波新書 東京 2015.6
- 栗原俊雄 「シベリア抑留 未完の悲劇」 岩波新書 東京 2009.9
- 富田武 「シベリア抑留者たちの戦後： 冷戦下の世論と運動 1945-56年」 人文書院 京都 2013.12
- 富田武 「新聞報道に見るシベリア抑留：米ソ協調から冷戦へ 1945-1950年」 ユーラシア研究 2013.5 (48巻) 7-13p ユーラシア研究所
- 富田武 「シベリア抑留研究の過去・現在・未来」 同時代史学研究 2016 (9巻) 同時代史学会 東京
- 富田武 「シベリア抑留―スターリン独裁下、「収容所群島」の実像」 中公新書 2016.12
- 小河原正巳 「ヒロシマはどう記憶されたか：NHKと中国新聞の原爆報道」 朝日新聞出版社 東京 2014.7
- 直野章子 「原爆体験と戦後日本：記憶の形成と継承」 岩波新書 東京 2015.7
- セルゲイ・I・クズネツォフ著 岡田安彦訳 「シベリアの日本人捕虜たち―ロシア側から見た「ラーゲリ」の虚と実―」 集英社 1999.7
- 聞蔵Ⅱビジュアル <http://database.lib.keio.ac.jp.kras1.lib.keio.ac.jp/asahi/dna.html>
- ヨミダス歴史館 <https://database-yomiuri-co-jp.kras1.lib.keio.ac.jp/rekishikan/>
- 毎索 [https://dbs-g-search-or-jp.kras1.lib.keio.ac.jp/WMAI/WMAI\\_ipcu\\_login.html](https://dbs-g-search-or-jp.kras1.lib.keio.ac.jp/WMAI/WMAI_ipcu_login.html)
- 『シベリア抑留』／富田武インタビュー [www.chuko.co.jp/shinsho/portal/098406.html](http://www.chuko.co.jp/shinsho/portal/098406.html)